

品川支部

令和二年3月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

三月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

コロナウィルスに関しての 本部からのお願い

帰参者の皆様へ

新聞・ニュースで既知の通り、日本国内でも新型コロナウイルスの感染者が多数確認されております。国としては、一人ひとりの咳エチケットや手洗いなどの実施の重要性を訴えています。

咳エチケットとして、マスクの着用を心掛け、マスクがない時にはティッシュやハンカチで口や鼻を覆うようにする。また、帰宅時や調理・食事前に石けんと流水による手洗いをこまめに行い、アルコールで消毒する等が感染症対策として挙げられています。帰参者の皆様におかれましては、咳エチケットや手洗いの励行、感染症予防にお努め頂きますようお願い致します。

信者部公衆衛生課

うがいは？

最近のウィルス対策では、マスクと手洗いで「うがい」が書かれていない事が多いですね。逆に有害説もあるくらいで、うがいはどうなっているんでしょう？風邪には有効なうがいもウィルスには効かず却って広げる可能性もあるという事だそうです。ウィルスに関しても、のどが乾燥しないように緑茶等を飲んで胃に流すことは有効なんですって。

マスクは取り外しの時に気を付けて触ったら手を洗う事が大切との事、医療関係者の感染は着替えや、この時が一番危険なんだそうです。

自分は感染しない、させないという事ですが、なんにせよ早く収まってくれますよう、お願いするのみですね。

☆支部行事のお知らせ

- ・支部幹事会
三月九日(月)午後六時〜(都南にて)
・教区ひのきしん(三月五日(木)十七日(火))
当番は鶴平組です。十七日霊舎ひのきしんと二度ありますので宜しくお願いします
- ・神名流し
三月一日(日)午前十時〜
場所 大井西口ロータリー
・在宅センターひのきしん
三月三十一日(火)午前九時半〜
- ・支部例会
三月三十日(二頁参照)
二月はコロナウィルスの影響で例会の自粛を致しました。今回も状況によって決めますがお近くの教会で確認して頂きたくお願いします

☆教務支庁からのお知らせ

- ・婦人会創立百十周年
昨年から決起の集い等で盛り上がりを見せ東京ではよろこびのパレードに参加の為多くの方がダンスを習っており盛り上がりを見せしております。誕生祭までにはウィルスも収まっています様祈ります

・学生担当委員会

立教百八十三年春の学生おちば帰りは
三月二十六日から二十九日
教務支庁からの参加希望の方は
参加申込用紙が各教会に配布
されていますのでご利用ください

・少年会

第四十六回鼓笛バンドコンクール
は三月二十一日(土)に板橋区立
文化会館で行われます。
教区行事の中でも最も多くの方
が参加されるイベントの一つで、大
変レベルの高い演奏演技を見ること
が出来ます。是非お越しください

・天理大学雅楽部定期演奏会

毎年恒例になっております天理大
学雅楽部の定期演奏会が浅草公
会堂で三月十五日に行われます。
まだご覧になったことがない方に楽
しんで頂けるプログラムになってい
ます。入場券は教会にお問い合わせ
してください。

・支部内教会のイベント案内

二月二日に支部内三ツ木分教会
の神殿新築と会長奉告祭が行わ
れました。建築の最終はもう少し
時間がかかりますが、六月には例
会の会場として皆さんにもご覧い
ただけます。

| 拠点教会 | 1日号 | 8日号 | 15日号 | 22日号 | 29日号は 4月5日号 との合併 号となり ますので 今月は ありません | 時報手配り 三月予定 |
|------|-----|-----|------|------|--|---------------|
| 日本橋 | 手配り | 手配り | 手配り | 手配り | | |
| 本 荏 | 直 送 | 手配り | 手配り | 手配り | | |
| 南 泰 | 手配り | 手配り | 手配り | 手配り | | |
| 三ツ木 | 直 送 | 直 送 | 直 送 | 直 送 | | |
| 水豊田 | 直 送 | 手配り | 手配り | 手配り | | |

品川支部例会

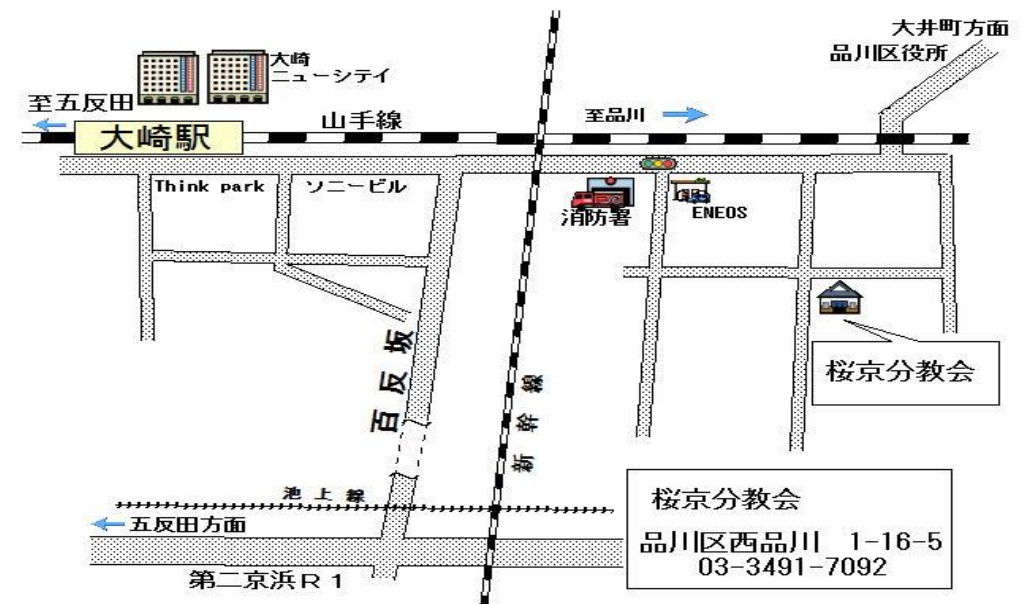
令和二年 3月30日 (月) 場所 櫻京分教会

(品川区西品川 1-16-5)

内容 おつとめ よろづよ八首 三下り目 東京教区、支部連絡事項 当該教会長 挨拶 昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも

(白足袋ハッピー着用)



私の信仰

一期講師を拝命して



水豊田分教会

石田寛之

昨年末より修養科一期講師
女子の組担任の任命を受け、毎
日追われるように過ごしており
ます。

冬のおちばの朝づとめは空気が
張り詰めていて、とても寒いの
ですが、何とも言いようのない心
が洗われるような気が致します
。又、毎日朝づとめ十分前の教
祖「お出まし」は有難さで格別の
感が有ります。

さて、今回のお役を通して感
じたことは、いかに心の病、精神
的に疲れておられる方が多いと
いう事でした。

すべてのクラスに複数の心の身上
の方がおられます。その方々のお
世話取りを通して、自分がお
たすけするのでは無く、いかにし
て親神様・教祖にお働き頂いて
ご守護頂けるかを念頭において
通らせていただいております。

また、数年前から組担当
授業は稿本天理教祖伝
を教えます。クラスの皆さん
にちゃんと伝えるにはこれだ
け勉強しなければいけない
のかと思うほど予習に時間
がかかります。また、授業
は教服でおこなうのですが、
最初の一週間は緊張で額か
ら汗を流しながら進めてい
ました。(今でも額から汗が
流れますが：)

それから一期講師は本部
の月次祭では結果の中で参
拝することが出来ます。今
期は十二月の月次祭、元日
の本部元旦祭、一月の春季
大祭、二月の月次祭と計四
回「かぐらづとめ」を拝しな
がら参拝することが出来て、
有り難くも勿体ない貴重な
経験を見せて頂いております。

元旦祭では朝の四時から七
時まで参拝させて頂きまし
た。本部結界内の最前列で
初めて拝した「かぐらづとめ
」は何とも言い表すことが出
来ないほど感動しました。
十人のつとめ人衆の先生が
それぞれ違う手振りをされ

ながらおつとめが進んでいき
ます。その違う手振りとは
親神様が人間世界創造に際
してのお働きを手振りに表
してつとめるから違うのです
が、参拝しながら一期講師
としての「褒美を頂いた気が
します。

その一期講師の任期も始まっ
た当初は三ヶ月間って長いな
と感じていましたが、今では
あつという間の気がします。
その間、お節会ひのきしんや、
修養科生へ向けての記念講
話など普段出来ない貴重な
経験をさせて頂きました。

終わりに、私の受け持ってい
る一〇二組のクラスは二十三
名の修養科生がおられます
が、約半数が何かしらの身
上を持っておられます。そこ
で一月に入ってから夕方の神
殿掃除のあとに全員に残って
もらい、おさづけの取り次ぎ
合いとお願いづとめを勤めて
おります。

天理時報 2月23日号にその
風景が写真で掲載されます。
最初は恥ずかしくて取り次
げなかつた修養科生も今では
一生懸命に相手のたすかり

を願ひ、おさづけ取り次ぎ
とお願いづとめをして下さ
っています。担任、副担任
を含め二十五名での本部
神殿でのおさづけの取り次
ぎ合ひは、親神様が人間
創造の際に思召された『
人間が互いに立て合いたす
け合ひ、陽気ぐらしをす
る様を見て神も共に楽し
みたい』という言葉が思い
出されます。

天理教教典第八章に『一
名一人の心に誠一つの理が
あれば、内々十分おつまじ
いという一つの理が治り、他
をも自ら化し、一波は方
波を呼んで、更に多くの人
々の心の躍動を呼び起す。
』という一文があります。
このクラスの修養科生の誠
真実の姿や行いが、それぞ
れの地元へ帰っても続けら
れることを、そして思いが
波となり広がっていく事を
願っています。

近くに困っている方がおら
れましたら是非修養科へ
お誘い下さい。
ありがとうございます。